

玉川大学 農学部

TAMAGAWA UNIVERSITY
College of Agriculture

2027

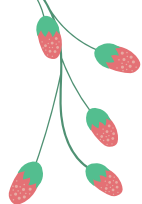
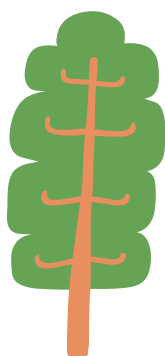
生産農学科

生物資源コース
生命科学コース
理科教育コース

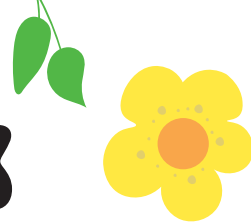
環境農学科

先端食農学科





玉川大学 農学部



世界を舞台に農学の
新たな可能性を探索する人を育てる



農学部 Website

生産農学科

生物資源コース・生命科学コース

農学を幅広く学び、食と農の発展に貢献

#Keywords

- ・作物・果樹・栽培技術・分子育種
- ・ゲノム編集・微生物・病虫害防除
- ・農薬開発・バイオテクノロジー
- ・天然物化学・有用代謝産物
- ・社会性昆虫・昆虫生理・適応進化
- ・摂食行動・免疫・恒常性・生殖と発生
- ・ゲノム・遺伝子・タンパク質・細胞

農学と生命科学を総合的に学びたい人にお勧め!

理科教育コース

多岐にわたる自然科学の知識をもつ
理科教員になる

#Keywords

- ・中学校教諭一種免許状（理科）
- ・高等学校教諭一種免許状（理科）
- ・高等学校教諭一種免許状（農業）
- ・中学校教諭二種免許状（技術）
- ・小学校教諭二種免許状
- ・安全で正しい実験方法・指導法
- ・豊富な模擬授業・模擬実験
- ・小中高理科の教材研究

理科や農業科の教員になりたい人にお勧め!

環境農学科

自然環境と農業を主軸に、国際的な
視点を持って環境問題に対応できる
知識と技術を養う

#Keywords

- ・環境保全・持続的農業・絶滅危惧種
- ・栽培技術・国際協力・地域活性化
- ・環境適応・植物化学・生態系・森林
- ・里地里山・物質循環・土壌生態
- ・生物多様性・野生動物・動物生態
- ・ドローン・人工衛星

国内外での体験を通じて、自然環境や持続的な
農業を学びたい人にお勧め!

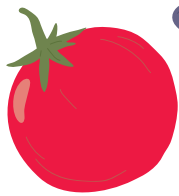
先端食農学科

サイエンスとテクノロジーを活用して、
未来の「食」づくりに挑戦

#Keywords

- ・食の6次産業化・熱帯果樹・栽培技術
- ・閉鎖系での食料生産・植物工場・陸上養殖
- ・食品衛生・食の安全・安心・保蔵
- ・食品加工・企画開発
- ・微生物利用・発酵・醸造・酒造
- ・食の健康機能・食品分析
- ・栄養生理・応用栄養・スポーツ栄養

食品の栽培・養殖から加工まで幅広く学びたい
人にお勧め!



玉川大学農学部の特徴



1. 学内農場 (玉川大学キャンパス: 東京都町田市)

東京にありながら、学内農場には畑・水田・温室が揃い、種まきから収穫まで全ての農作業を経験できます。授業の合間でも気軽に圃場で作物の観察・調査ができます。さらに、農場周辺には里山が広がっており、さまざまな生き物たちに出会えます。



2. 触れることから始める実践的な学び

実際に手で触れて目で見て学ぶ学修環境を整えています。玉川大学キャンパス内には、LED を利用した植物工場研究施設や食品製造を学べるフードサイエンスホールがあります。さらに、箱根の自然観察林や北海道・鹿児島島の農場など、多様な環境の中で学びを広げることができます。



北海道
弟子屈農場

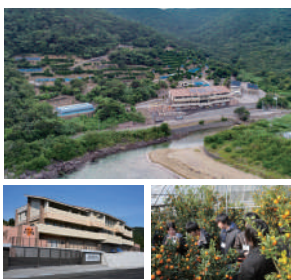
玉川大学キャンパス



植物工場研究施設



Food Science Hall



鹿児島
南さつま久志農場

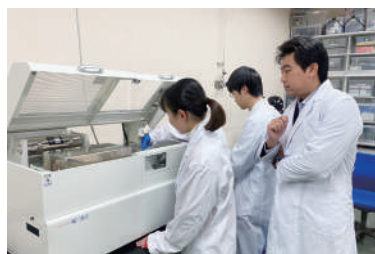


箱根自然観察林



3. 教員と学生がともに学ぶ ~師弟同行~

農学部では、教員と学生が共に学ぶことを大切にし、教職員が一丸となって学生の充実した学修をフォローします。1年次より担任が付き、全員への定期的な面談を行うだけでなく、普段からの声かけを大事にし、より良い大学生活が送れるようサポートしています。





農学を幅広く学び、食と農の発展に貢献

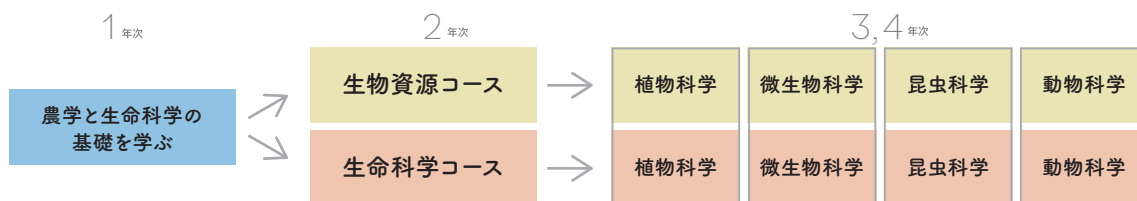
学びのキーワードは「総合農学」です。生物を理解し、食糧生産を向上させるには農学を幅広く学ぶことが不可欠です。生産農学科では、地球上のさまざまな生物を研究対象として、マクロな視点（個体や集団など）とミクロな視点（遺伝子や細胞など）から生物の機能や特性を総合的に探究し、食と農の発展への貢献を目指します。

学びのポイント 2つのコース × 4つの専門領域で多様な学びの展開

1年次は農学と生命科学の基礎を学び、2年次から2つのコースに分かれて特色のある履修を進めます。3年次からは2つのコースがそれぞれ4つの専門領域に分かれ、各コースの専門性を高めていきます。

生物資源コース：マクロの視点で食糧生産や農業技術の向上に取り組み、フィールドワークを中心とした研究活動によって食と農の発展に貢献していきます。

生命科学コース：ミクロの視点で生命現象の本質の解明に取り組み、ラボワークを中心とした研究活動によって食と農の発展に貢献していきます。



主な開講科目

セメスター	1	2	3	4	5	6	7	8
	農学や生命科学の 基盤となる科目を学ぶ		各コースの 基幹科目を身に付ける		興味や志向に合わせた 専門科目へ		学びたい専門領域を 究める	
講義科目	<ul style="list-style-type: none"> 生物学 A・B 有機化学 A 生産農学セミナー 	<ul style="list-style-type: none"> 化学 A・B 環境と農業 生物統計学 A 	<ul style="list-style-type: none"> 有機化学 B 微生物学 細胞生物学 	<ul style="list-style-type: none"> 昆虫資源学 動物行動学 生態学 	<ul style="list-style-type: none"> 植物育種学 ゲノム科学 	<ul style="list-style-type: none"> 植物病理学 植物生理学 	<ul style="list-style-type: none"> 生産農学演習 B 生産農学演習 C 	
実験 実習科目	<ul style="list-style-type: none"> 基礎生物学実験 基礎化学実験 フィールド実習 A 		<ul style="list-style-type: none"> フィールド実習 B 生物化学実験 		<ul style="list-style-type: none"> 専門実験・実習 A 専門実験・実習 B フィールド実習 C 		<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究 A 卒業研究 B 卒業研究論文 	
実験・実習 項目の例	<ul style="list-style-type: none"> 花の観察 昆虫の外部形態 哺乳動物の内部形態 小農具の使用法 秋野菜の栽培管理 収穫物の品質調査 	<ul style="list-style-type: none"> 陽イオン定性 酸度の測定 	<ul style="list-style-type: none"> 生理活性物質の抽出 タンパク質分離・DNA抽出 害虫と農業・病原菌と農業 夏野菜の栽培管理 草刈り機講習 		<ul style="list-style-type: none"> 土壌分析 酵素の動力学定数 天然物の抽出 遺伝子分離調査 PCR分析 学外農場での自然観察 		<ul style="list-style-type: none"> 園芸作物の高品質化に関する研究 ゲノム編集による生物の改良 植物寄生菌の分類や菌類病害の診断 社会性ハチ類の生理・生態の解析 動物の行動への環境の影響 栄養や環境の哺乳動物への影響 	

※科目名称や開講するセメスターは、変更されることがあります。



広い学内農場で作物の栽培管理を学ぶ

フィールド実習A (必修)



自分専用の畑で野菜を栽培

フィールド実習B



ハウス栽培も体験

北海道・鹿児島で幅広い農業に触れる

フィールド実習C (選択科目、1ヶ所で宿泊実習)



北海道 弟子屈農場の演習林を観察



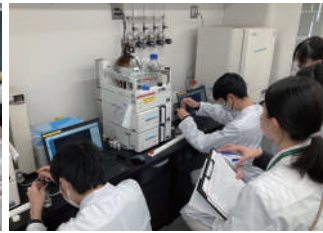
鹿児島 久志農場に面する海岸での調査

広く充実した実験室で理論と技術を身につける

実験背景と目的の理解、実験操作の習得、実験結果の取得と考察、レポート作成、レポートへのフィードバックを繰り返し、基礎力を身につけます。



基礎生物学実験



生物化学実験



専門実験実習

取得可能な資格

- ・環境再生医初級
- ・学芸員

受講可能な検定・講習等

(講義外、任意、別途費用がかかります。)

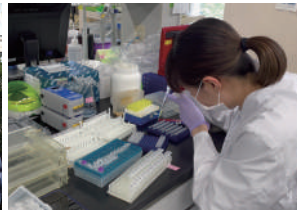
- ・農業技術検定
- ・刈払い機取扱者安全衛生教育
- ・大径木伐木等(チェーンソー)特別教育(隔年)
- ・小型車両系建設機械(3t未満)特別教育(隔年)

農学に関する幅広い分野を網羅した4つの専門領域(3年次より配属)

*生物資源、生命科学の両コースとも4領域のいずれかに所属して学びます

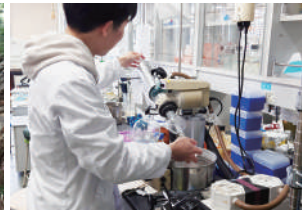
植物科学領域

作物・果樹の栽培技術の改良、分子育種や遺伝子機能解析に関する研究



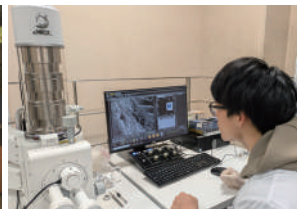
微生物科学領域

菌類資源、微生物が生産する有用成分、農作物の病害防除などに関する研究



昆虫科学領域

社会性昆虫の行動・生態や機能利用、適応と進化の仕組みなどに関する研究



動物科学領域

動物の生理学的解析、動物の発生や行動解析に関する研究



Student Voices

生産農学科 生物資源コース・生命科学コース

*取材時の学年を表記



植物科学領域
荻沼さん(3年生)
茨城県出身

入学のきっかけ

幼い頃から生き物が好きだったことや、祖父母と農作業した思い出から農学部への進学を考えました。玉川大学は東京にありながら学内に広い農場があり、自身の学ぶ姿が想像しやすかったことも理由の一つです。また、駅から近いことや地元の茨城で受験できたことも決め手になりました。

学科での学びと私のキャンパスライフ

想像以上にキャンパスが広く、最初は学内の移動に戸惑いました。しかし、実験や実習のたびにすぐ農場へ行けることは大きな魅力に感じました。また、新しい施設や設備が多く、明るく広い教室で学べるのも嬉しい点です。特に、1年生の実験実習の時から顕微鏡が一人1台使えたり、興味を持っていた作物や果樹のハウス栽培に取り組めたりと、学びやすい環境が揃っていると感じました。



微生物科学領域
川口さん(3年生)
神奈川県出身

入学のきっかけ

高校で「生物」に興味を持ち、生命現象や日常生活と身近な食物が結びつく農学に魅力を感じました。玉川大学は、広いキャンパスと農場があり、座学だけでなく、実践的な学びを通して、農学について深く学べるところに惹かれました。さらに、他学部とも関わりながら、自分の視野が広がることも入学の決め手になりました。

学科での学びと私のキャンパスライフ

想像していた以上に、農学は知識だけでなく経験と判断力が必要な学問だと実感しました。栽培や管理を通じてその難しさと奥深さを知りました。座学の知識を活かした工夫が結果に結びつく面白さを感じています。



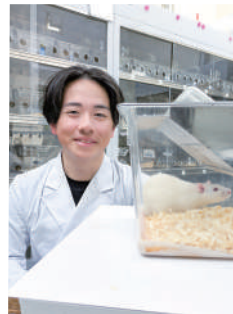
昆虫科学領域
渡辺さん(3年生)
栃木県出身

入学のきっかけ

幼い頃から昆虫に興味があり、「なぜその昆虫がこのように行動するのか」という昆虫の行動や生態に魅了されてきました。高校時代には進路選択に悩みましたが、玉川大学でハチヤアリなどの社会性昆虫を学べば、より専門的な知識を身につけられると考えました。こうした思いから、農学部への進学を決意しました。

学科での学びと私のキャンパスライフ

入学してまず感じたことは、学ぶ機会の多さです。多様な視点を持つ仲間との議論を通して新たな考え方に触れ、視野が大きく広がりました。さらに、学芸員の資格取得にも挑戦し、困難に直面しながらも乗り越える中で、多くの学びを得ることができました。



動物科学領域
六本木さん(3年生)
東京都出身

入学のきっかけ

私は当初、将来のことを深く考えずに文系を選択していました。しかし、毎年祖父が送ってくれるお米や野菜を食べるうちに、その有難さや尊敬の念が強くなり、次第に農業への興味・憧れへと変わっていききました。これがきっかけとなり理系へ転進し、高校の先生からの助言もあって、玉川大学農学部への入学を決めました。

学科での学びと私のキャンパスライフ

キャンパスが都内にあるため、知識を中心に学ぶと入学前には思っていました。しかし、入学してみると、広大な園場がキャンパス内にあり、知識だけでなく体を使った実践的な学修ができることに驚きました。また、私は高校で文系科目を中心に履修してきましたが、大学のカリキュラムに生物や化学の復習が盛り込まれていたため、専門的な科目も十分に理解できました。

生産農学科 理科教育コース



山田さん(3年生)
埼玉県出身

入学のきっかけ

高2の夏に「ふらっと玉川」に参加して初めて玉川大のキャンパスを歩きました。とても広くて疲れましたが、農場がキャンパス内にあることや、理科教育コースは農学を学びながら理科の教員免許も取得できることを知り入学を決めました。

学科で学びと私のキャンパスライフ

「フィールド実習」は玉川でなければ学べない授業です。2年の時はピーマン栽培のための土壌準備から播種、そして収穫までの工程を学ぶことができましたし、3年の時は北海道の学外農場に行つてワイン用のブドウ栽培についても学ぶことができました。青果コーナーに並んでいる野菜や果実がどのように生産されているのか、その背景を実体験と共に知ることができたのは教員になった時にも役立つ知識です。



前澤さん(3年生)
神奈川県出身

入学のきっかけ

昆虫や魚など生き物の図鑑が家にたくさんあったので、幼少期はそれらを見るのがとても好きでした。中3の頃に理科教員を目指すようになりました。高校に入ってから農業科にも憧れが出てきて、理科教育コースに入学したいと思いました。

学科で学びと私のキャンパスライフ

「理科指導法」で行う模擬授業はためになると思います。3年になると1時限分(50分)の模擬授業を担当します。授業は一人で行いますが、授業の組み立てを考える時や教材の準備は友人たちと意見交換をしながら進めることができるのでとても楽しいです。理科教育コースの仲間たちはとても仲が良いと思います。11月の収穫祭では「ミライズム研究所」研究員として「葉脈標本作り」のワークショップを実施しました。

生産農学科 理科教育コース



理論と実践をバランスよく学び多岐にわたる 自然科学の知識をもつ理科教員になる

理科教育コースは、児童・生徒に理科の面白さや不思議さはもちろん学問としての奥深さも伝えることのできる教員を養成します。1年次には生物学、化学を学びつつ農場での栽培実習『フィールド実習 A』を行います。その後、物理学、地学の専門的な知識を修得し、理科の実践的な授業スキルや実験指導スキルを身に付ける専門科目（『理科指導法Ⅰ～Ⅳ』『生物実験スキル』『化学実験スキル』『教職実践演習』『教材研究』等）に取り組んでいきます。理科教育コースの学びは、1年次から同じ志を持ったクラスメイトと共に進められていくのが特徴です。日頃から教壇に立つことを想定し主体的に学修に取り組む学生を歓迎します。

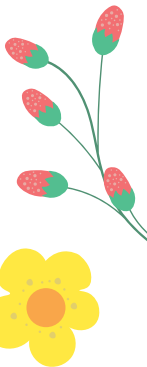
理科教育コースでは、高等学校教諭一種免許状（農業）または中学教諭二種免許状（技術）*1を同時に取得できます。さらに、小学校教諭二種免許状を取得できるダブル免許プログラム*2も実施しています。

*1 受講には条件があります。 *2 ダブル免許プログラムの受講には別途費用がかかります。



主な開講科目

シラバス(講義要覧・シラバス照会 をクリックしてください。)▶
※科目名称や開講するセメスターは、変更されることがあります。



	1年次		2年次		3・4年次		将来は	
	参観実習など現場に触れながら、 教職の意義と基礎理論を修得。		教科に関する科目を学ぶとともに、 指導法の基礎を修得。		教科・教職双方の専門性を養い 実践力と応用力を身につける。		理科・農業科の奥深さを 伝えられる教員へ	
	1年次		2年次		3年次		4年次	
	1	2	3	4	5	6	7	8
理論	学科の専門科目							
	生産農学セミナー 化学 B 基礎化学実験 フィールド実習 A	生物学 B 基礎生物学実験 有機化学 A	物理学 生化学 物理学実験	地学 生物統計学 B 地学実験	分子生物学 細胞生物学 フィールド実習 B	動物行動学 野外活動指導法	作物学 緑地保全学	植物育種学 野外活動指導法
	教育原理 学習・発達論	教職概論	教育方法・技術論 教育の制度と経営	特別支援教育 ICT活用の理論と実践	教育相談の理論と方法 生徒・進路指導の理論と方法 道徳教育の理論と方法		教育実習 教職実践演習	教職演習
実践	教職関連の専門科目							
	理科指導法Ⅰ・Ⅱ 職業指導(農業)Ⅰ		農業科指導法Ⅰ・Ⅱ		理科指導法Ⅲ・Ⅳ 化学実験スキル		生物実験スキル 教材研究概論 教材研究	
	参観実習/学校体験活動 A		教育インターンシップ/介護等体験/学校体験活動 B				教育実習	





自然や農業を学び、多様な文化を理解し、国際的な視点を持って地域から環境課題解決に貢献

持続可能な開発目標（SDGs）への社会的な意識の高まりから、専門的知識と問題発見・解決能力を持つ人材が世界的に求められています。それには、関連するさまざまな知識や経験、また、国際的に通用する英語力が欠かせません。環境農学科では「自然・農業・社会」をテーマに、豊富な体験型授業、約4ヶ月の海外留学や国内実習、3年次後期以降の専門課程を用意し、多様なフィールドでの学びを通して、国際的な視野を持って環境問題に対応できる知識と技術を養います。

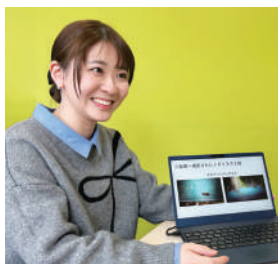
学科基幹科目

※科目名称や開講するセメスターは、変更されることがあります。

1年次		2年次		3年次		4年次		
基礎を築く		発展的に学ぶ		研究の基礎を学ぶ		卒業研究		
セメスター	1	2	3	4	5	6	7	8
	<ul style="list-style-type: none"> 農業と自然環境 化学入門 生物学入門 農場実習A Intensive English A 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎生物学実験 環境と生態 環境農学概論 農場実習B Intensive English B 	<ul style="list-style-type: none"> 土壌生態学 自然環境保全学 統計学入門 環境農学実験 	<ul style="list-style-type: none"> [地球環境プログラム] Plant Science Ecology Natural Resource Management Regional Environmental Studies 	<ul style="list-style-type: none"> 持続的農業論 農学国際協力 地球環境科学 農場実習C Practical English for Science 	<ul style="list-style-type: none"> 野生動物学 緑地生態学 領域演習A Comprehensive Agri-Environmental Studies 	<ul style="list-style-type: none"> 領域演習B 卒業研究A 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究B 卒業研究C
	<h4>農場実習A・B (1・2セメスター)</h4> <p>「体を動かしながら学べて楽しい!」と毎年、毎年、1年生に大好評の科目です。</p> 			<ul style="list-style-type: none"> [地域環境プログラム] フィールド演習A/B Regional Environmental studies 	<h4>領域演習A (6セメスター)</h4> <p>卒業研究の準備として、教員の指導のもと、実験や調査を通して専門基礎を学びます。</p> 			

*取材時の学年を表記

Student Voices



松岡さん (4年生)
東京都出身

なぜこの学科を選びましたか?

海外留学に魅力を感じたことと、ホームステイを経験できる点に惹かれました。また、動物が好きで野生動物の研究ができる環境が整っていることも、入学の大きな決め手になりました。

実際に入学して感じたことは?

1年次から多くの実習があり、様々な地域で学ぶことで視野が広がりました。先生方や他の学生との距離が近く、協力する中で自然と絆も深まりました。大学の施設を活用し、北海道で野生動物(トガリネズミ)に関わる卒業研究ができたことが、とても印象に残っています。留学帰国後も海外の方と臆せずコミュニケーションを取り続け、これらの経験が就職活動でも大きく役立ちました。環境農学科の学びの中で、自分自身が大きく成長できたと感じています。



上野さん (3年生)
東京都出身

なぜこの学科を選びましたか?

自然が好きで、農家である祖母の手伝いをした経験から農業に関心を持つようになりました。農業を起点とした地域創生を学べる点に魅力を感じました。英語に不安もありましたが、海外留学を含め幅広く学べる環境が整っていることも、決め手となりました。

実際に入学して感じたことは?

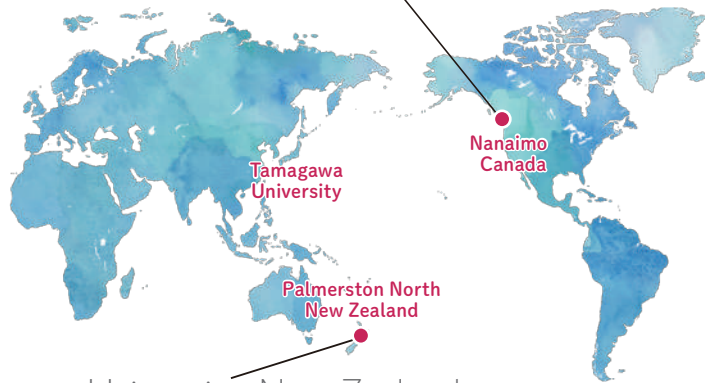
学内だけでなく学外施設を利用した実習も想像以上に充実しており、実践を通して多くのことを学ぶことができました。海外留学中は、広大な自然や異文化に触れたことで視野が大きく広がり、また、挑戦を後押ししてくれるホストファーザーや周囲の仲間を支えられたことで、今では新しいことにも躊躇なく一歩を踏み出せる自分に成長できたと感じています。海外留学は、自分の考え方を大きく変えてくれる貴重な経験です。ぜひ大学で挑戦してみてください。

●地球環境プログラム(2年次秋 semester)

4ヶ月の海外留学を含め、4年間で卒業

Vancouver Island University, Canada

バンクーバーアイランド大学 (カナダ、ブリティッシュコロンビア州、ナナイモ)



Massey University, New Zealand

マッセー大学 (ニュージーランド、パーマストンノース)

※留学先は変更となる場合があります。

4ヶ月間の海外留学で、自然環境・農業の専門科目をフィールドワークを通じて学び、グローバルな視点を身につける



国際社会で通用する語学力を身につける
環境農学科の英語教育



●地域環境プログラム(2年次秋 semester)

国内にある学外施設での多様な実学を通して、視野を広げ実践力を養う



箱根自然観察林

山地の自然や動植物とともに
野外での安全な活動方法や
山地の保全活動についても学ぶ



北海道弟子屈農場

演習林実習、畜産実習、農業施設見学、
周辺の自然観察調査を行い、
寒冷地ならではの農業と自然を体験



鹿児島南さつま久志農場

柑橘や熱帯果樹の管理、農業施設見学、
隣接するビーチで沿岸生態系を調査を行い、
温暖地ならではの農業と自然を体験

2つの専門領域

3年次より「生態系科学領域」「持続的農学領域」のどちらかに所属し、
4年次からは専門分野に分かれ卒業研究を進めながら、より高度な知識と技術を身に付けます。

生態系科学

生態系や地球環境の成り立ち、
人間による環境への影響を研究する

持続的農学

環境負荷の少ない農業技術や
希少植物の栽培手法、農業と社会の関わりを学ぶ

2025年度の卒業生の研究テーマ(一部抜粋)

- ・小河川における浸透性沈砂池を用いた浮遊砂除去と周辺環境への影響
- ・人工林および天然林における切り株の機能と枯死木不足に関する研究
- ・八丈島植物公園におけるオオタニワタリの生育特性
- ・玉川大学キャンパスにおけるタマノカンアオイの生育環境と個体特性
- ・カメラトラップによるネズミ類とトガリネズミ類の生息調査法の検討
- ・ニホンジカによるミネラル栄養素の選好性
- ・バイオ炭散布が中型土壌動物の個体数および種数に与える影響
- ・物体検出 AI を用いたミカンの果実品質の予測
- ・日本における播種時期がNERICA14の生育に及ぼす影響
- ・養液栽培においてイチョウチップ培地がトマトの生育に与える影響
- ・オオタニワタリの人工増殖に関する研究—幼孢子体形成の効率化
- ・ラン科植物(キンラン、シュンラン)の採種法の検討
- ・日本の米粉市場の現状と展望に関する研究
- ・静岡県におけるスマート農業の普及
- ・タンカンの屋根かけ栽培が高品質果実の生産に及ぼす影響
- ・マルチ資材の違いがジャガイモ栽培に及ぼす影響





サイエンスとテクノロジーを活用して、未来の「食」づくりに挑戦

先端食農学科では、食品の持つ役割や安全性について理解を深め、既存の農業を超えた食料生産のしくみや食品の機能性、食品製造にかかわる専門的な知識と実践的な能力を身につけます。

既存の農業を超えた食料生産システムとして、LED を用いて野菜を生産する「Future Sci Tech Lab」や、海産物を陸上で養殖する「Aqua-Agri Station」、生産された食料から安全・安心な加工食品を製造する「Food Science Hall」など、大型の実習施設が設置されており、これらの実習施設を利用しながら新しい食料生産のしくみを体験的に学修します。



Future Sci Tech Lab



Aqua-Agri Station



Food Science Hall

主な開講科目

取得可能な資格：食品衛生管理者、食品衛生監視員(任意資格)など

※ 履修状況により、取得可能な資格が異なります。

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
食料・食品を理解する 基盤を築く		実験・実習で知識とスキルを 修得する		専門領域に所属し、実験・実習・ 演習を通して問題点を見出す		専門領域の中からテーマを発見 し追求する	
1	2	3	4	5	6	7	8
講義科目 ■ 生物学 ■ 有機化学A ■ 先端食農セミナー ■ 化学 ■ 分析化学		講義科目 ■ 生物化学A・B ■ 有機化学B ■ 水産学 ■ 生物統計学 ■ 微生物学 ■ 食品機能化学 ■ 食品製造科学		講義科目 ■ 食品衛生学 ■ 畜産物利用学 ■ 植物生理学 ■ 栄養生理化学 ■ 応用栄養学 ■ 生物化学C		講義科目 ■ 先端食農演習A ■ 先端食農演習B	
実験実習科目 ■ 基礎生物学実験 ■ 基礎化学実験 ■ フィールド総合実習A		実験実習科目 ■ 先端食農実験 ■ 先端食農実習 ■ 食品加工実習 ■ フィールド総合実習B		実験実習科目 ■ 専門領域研究A ■ フィールド総合実習C ■ 専門領域研究B		実験実習科目 ■ 卒業研究A ■ 卒業研究B ■ 卒業研究論文	
3年次より専門領域（システム農学領域／食品科学領域） に所属します							

※科目名称や開講するセメスターは、変更されることがあります。



システム農学領域

農業の効率化や省力化を実現するために新しい技術の研究開発に取り組んでいます。ただ単に新しさを求めるだけでなく、卒業研究では基礎からの積み上げを重視しています。



植物工場や陸上養殖施設などの閉鎖系循環システムを利用した卒業研究が可能です。近未来型の食料生産に携わることで、新たな農業を考えてみよう。

食品科学領域



食品の安全、美味しさと健康について研究しています。新たな「食」づくりのための製造技術や機能性の解明という卒業研究に取り組むことで、社会で活躍できる人間形成を重視しています。



マウスなどのモデル生物、あるいはヒトを対象とした卒業研究が可能です。また様々な食品の加工方法と機能性について研究しています。

Student Voices



隅田さん(3年生)
広島県出身

入学のきっかけ

私は小さい頃から食物アレルギーがあり、アレルギーを持つ人でも安心して食べられるものを開発したいと考えていました。玉川大学では、食品の機能性や製造に関わる知識や技術を身につけることができる点に魅力を感じて入学を決めました。

先端食農学科での学びや魅力

先端食農学科では、3年次からシステム農学領域と食品科学領域に分かれ、卒業研究に向けた基礎研究が始まります。私が所属する食品科学領域では、食品に含まれるタンパク質や全糖量の測定、DNAの抽出実験を行いました。自分が興味を持つ分野での実験だったため、結果に対して「なぜこのようになるのか」を深く考えることができました。この経験を通して、食品を科学的に捉える視点を普段の生活でも意識するようになりました。



山下さん(2年生)
神奈川県出身

入学のきっかけ

中学生の頃、ふとこの食べ物はどこから来ているのだろうと考え、日本の低い食糧自給率が目に留まりました。その対策を調べていく中で玉川大学のLED植物工場を知り、興味を持ち入学を決めました。

先端食農学科での学びや魅力

2年生の授業は1年生に比べて専門かつ実践的になります。清涼飲料水にどれだけの糖分が含まれているか実験したり、光の色によるレタスの味の違いを食味、考察したりします。そして2年生の終わりの領域選択に向けて、それぞれの領域の特徴を学べる授業も用意されています。また鹿児島久志農場でのフィールド実習、アイスやジャムなどの食品加工実習もあり、座学だけでなく、自ら学びをより深める機会が多く準備されています。

入学のきっかけ

中学の頃に病気で休学した経験から、健康維持や病気の予防に役立つ食品の開発に興味を持ちました。玉川大学の広大な敷地での豊富な実習を通し、食の安全性や機能性について深く学べると思い入学を決めました。

先端食農学科での学びや魅力

先端食農学科の1年次では学内農場でのトマト栽培や、化学・生物学実験にて自分の手を動かしながら食に関する基礎知識を実践的に学べます。夏の農場は暑く大変な時もありましたが、収穫時には大きな達成感を得られました。授業や実験の後には友達と協力しながら課題に取り組み、有意義で楽しい毎日を過ごしています。2年次では食品加工実習も始まり、より専門的な知識を得られるため、さらに充実した学生生活が送れそうです。



喜多さん(1年生)
東京都出身

農学部 × キャリアセンター

就職に向けたサポート体制とキャリア教育



学年に応じてステップアップするキャリア教育

- ・1年次：キャリアについての講話
- ・2年次：進路開拓研修
- ・3年次：就職マナー講習（面接対策等）
就職対策講座 / 業界研究会
- ・随時、個別相談への対応

生産農学科 生物資源コース・生命科学コース

主な就職先

- ・タキイ種苗(株)
- ・雪印種苗(株)
- ・日本農林社
- ・科研製薬(株)
- ・森永乳業(株)
- ・(株)シャトレーゼ
- ・丸和バイオケミカル(株)
- ・キューピー醸造(株)
- ・日本食研ホールディングス
- ・ホクト(株)
- ・秋本食品(株)
- ・(株)アグリ総研
- ・(株)大田花き
- ・(株)理研グリーン
- ・長坂養蜂場
- ・(独)家畜改良センター
- ・(株)セルリアンタワー東急ホテル
- ・(株)産業経済新聞社
- ・JA(全農東京、西東京、埼玉中央、横浜)
- ・農林水産省
- ・長野県庁

生産農学科 理科教育コース

取得可能な免許・資格

- ・[理科]中学校教諭一種免許状
 - ・[理科]高等学校教諭一種免許状
 - ・[農業]高等学校教諭一種免許状
 - ・[技術]中学校教諭二種免許状
 - ・小学校教諭二種免許状
- (ダブル免許プログラム受講により取得可能※)

※プログラムの利用には、学部の選抜を経ることが条件となります。また、通信教育課程で学ぶ費用がかかります。

主な就職先

- ・小学校教諭(全科、理科)、中学校教諭(理科)、高校教諭(理科、農業)
- ・東京都教育委員会
- ・神奈川県教育委員会
- ・埼玉県教育委員会
- ・千葉県教育委員会
- ・茨城県教育委員会
- ・山梨県教育委員会
- ・静岡県教育委員会 等

※2021-2025 理科教員養成プログラム実績

環境農学科

主な就職先

- ・(株)環境管理センター
- ・(株)シャトレーゼ
- ・共立製薬(株)
- ・(株)大田花き
- ・国立研究開発法人 農業・食品産業技術研究機構
- ・清水建設(株)
- ・山崎製パン(株)
- ・(株)雪国まいたけ
- ・イオンリテール(株)
- ・(株)京樽
- ・UTコンストラクション(株)
- ・信州うえだ農業協同組合
- ・(株)伊藤園
- ・平松畜産(株)
- ・(株)ユニバーサル園芸社
- ・(株)那須環境技術センター
- ・ユニフルーティージャパン
- ・岐阜日産自動車(株)
- ・東一川崎中央青果(株)
- ・生活協同組合ユーコープ
- ・JA全農たまご(株)
- ・頸南森林組合
- ・住友林業緑化(株)
- ・応用地質(株)
- ・海老名市役所
- ・埼玉県庁
- ・小田原市役所

先端食農学科

主な就職先

- ・(株)伊藤園
- ・キューピー(株)
- ・協同乳業(株)
- ・高梨乳業(株)
- ・マルハニチロ(株)
- ・マリンフーズ(株)
- ・はごろもフーズ(株)
- ・日本ハム(株)
- ・菊正宗酒造(株)
- ・(株)東ハト
- ・敷島製パン(株)
- ・フジパンググループ本社(株)
- ・(株)創味食品
- ・(株)明治屋
- ・日本食研ホールディングス(株)
- ・イオンリテール(株)
- ・日清食品(株)
- ・プライムデリカ(株)
- ・わらべや日洋食品(株)
- ・伊藤忠食品(株)
- ・(株)シャトレーゼ
- ・東和薬品(株)
- ・全国農業協同組合連合会 茨城県本部(JA全農茨城)
- ・セサ川崎農業協同組合(JAセサ川崎)
- ・横浜農業協同組合(JA横浜)
- ・(株)ローソン
- ・キューピーたまご(株)

アクセス

- 新宿より小田急線(快速急行)に乗りし、所要時間
「新百合ヶ丘」にて(各停)〈準急〉に乗り換え 約30分
- 横浜よりJR横浜線「町田」にて 所要時間
小田急線(各停)〈準急〉に乗り換え 約45分
- 羽田空港から京急空港線に乗りし、所要時間
「京急蒲田」で京急本線に乗り換え「横浜」へ。 約90分
JR横浜線に乗り換え、「町田」で
小田急線(各停)〈準急〉に乗り換え



Information

お問い合わせ

TEL 042-739-8155

〒194-8612 東京都町田市玉川学園6-1-1(入試広報部)

e-mail: koho@tamagawa.ac.jp

土曜・日曜・祝日及び大学一斉休暇の期間は休務となります。

*その他、学園行事及び入試広報部諸行事で休務となることがございます。ご了承ください。

https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_agriculture/



入試Navi